

地 域 連 携 だ よ り

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地

TEL : 0749-22-6050 (代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



あけましておめでとうございます



痛みをとるだけではなく、生活の質 (QOL) を取り戻す 人工関節センター



整形外科 部長 人工関節センター長

すみだ ひさし
角田 恒



現在、日本は世界でも有数の長寿国となっており、寿命が長くなればなるほど二足歩行をする我々の下肢関節が痛んでくるのは致し方ないことかもしれません。しかしながら「年を取ったからあきらめる」のではなく、いつまでも日常生活動作を自分の力、自分の脚で行うことを目指し治療していくのが我々整形外科医の努めであります。

当院では2014年6月より岐阜大学整形外科・秋山教授を顧問に迎え、人工関節センターを開院いたしました。秋山教授による股関節角田による膝関節専門診療を行い、加齢に伴う変形性関節症やその他疾患による関節痛に対して人工関節置換術をはじめ、より専門的な治療を行っております。

メディア社会の今、軟骨が再生し変形した関節が戻るような誤解を招く商品宣伝がなされ、また、その中で人工関節があたかも数年しか持たないような治療であると伝えられたりされています。人工関節はあくまで最終的な治療法であることは確かですが、我々は歩けなくなるまで弱ってしまった筋力を元に戻して差し上げることはできず、誤った情報により患者さんが適切な時期に最適な治療を受けられなくなることは防がなくてはなりません。

膝関節痛により生活動作・歩行に支障をきたしている患者さんがおみえになれば是非ともご紹介いただき、少しでも患者さん、そのご家族のお力になればと考えております。

地域密着！地元で治す！ 人工関節センター

◆変形性ひざ関節症

人の関節は軟骨、関節構造のおかげで様々な運動が可能となっています。しかしながら、人間特有の二足歩行を行うことで体重を支える背骨や脚の関節は必然的に加齢に伴う変形を来すこととなります。ひざ関節にある半月板や軟骨、靭帯が加齢により徐々にすり減り、すり切れを来し、関節の炎症、不安定性を生じるようになるのが変形性ひざ関節症です。



初期

進行期

末期

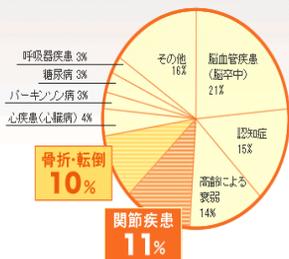
ひざが痛い人 →

自覚症状のある人：約1000万人
X線により患者数：約3000万人

◆骨折・関節疾患を軽くみてはいけません！

骨折・関節疾患は、脳血管障害と同じぐらい要介護・要支援状態になります！

要支援・要介護となった原因疾患



平均寿命と健康寿命 滋賀県

60 65 70 75 80 85 90 (歳)



健康寿命 70.42歳
9.13歳
平均寿命 79.55歳

病気を抱えて
生きる期間



健康寿命 73.62歳
12.68歳
平均寿命 86.30歳

健康寿命は、「健康で自立して活動し生活できる期間」です。滋賀県は、平均寿命が上位にきていますが、健康寿命が低いため、介護を要する期間が長くなります。

かかりつけ医の先生へ

- ①痛み
 - ②歩行できない痛み
 - ③日常生活動作に制限のある方
(買い物に行くのが楽しみだが、長く歩くと痛みが出るなど。)
- 是非、当院、人工関節センターへご紹介をお願い致します。

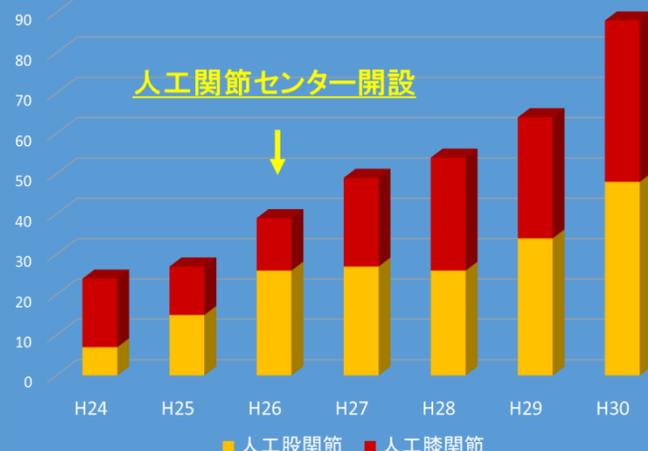
人工関節ライフ(http://kansetsu-life.com/comm_data/8_all.html#13_03)より

◆当院の状況

技術・人柄・経験・地域愛 私も角田先生をご推薦します。



当院人工関節手術件数の推移



岐阜大学 整形外科 教授 秋山治彦

彦根市立病院では、人工関節センターの開設以来、股関節および膝関節疾患でお困りの多くの患者様に来院していただき、人工関節置換術・人工関節再置換術をMIS (Minimally Invasive Surgery) はじめとする手術手技で積極的かつ安全に行っております。

患者様は元気に歩いて退院され、日常生活の改善や早期社会復帰をされておられます。人工関節センターでは、外来診療・手術治療に加えまして、術前術後のリハビリテーションの充実や退院・退院後のケアに至るまでサポートを行い、患者様の長期的な生活の質の向上にこれからも努めてまいります。

ひざが変われば、人生が変わる



◆変形性ひざ関節症の手術適応と方法

手術適応について、最も重要なのが関節痛の程度です。

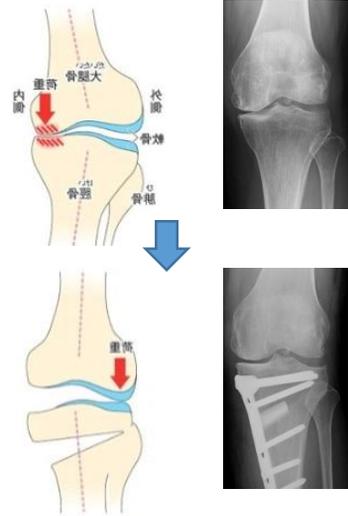
- ①内服、注射などの治療（保存的治療）でも痛みがとれない。
- ②日常生活動作に支障をきたす。



手術治療の検討が必要となる

その上で、画像上軟骨がすり減ってしまっている進行期～末期の関節症性変化を来している場合が人工関節の適応となります。軟骨が残っているような場合は自分の骨を温存した関節鏡手術や骨切り術を検討します。最終的には痛み、画像検査結果に加え、患者さんの年齢、生活状態、既往症（治療している病気の状態）など患者さんの取り巻く環境を総合的に判断し、治療方針を決定いたします。

高位脛骨骨切り術



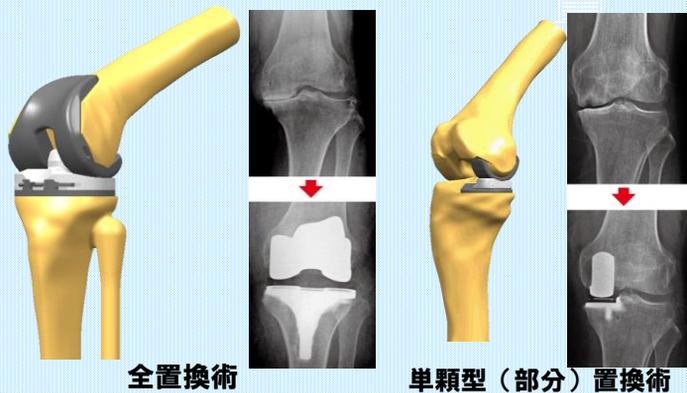
手術前

手術後

◆人工ひざ関節置換術

人工関節は先進国の平均寿命が70歳を超えてきた1970年代以降、人工関節自体の発展（金属インプラントの固定性の向上・材料の耐久性の向上など）に加え手術手技が向上し、現在では良好な長期成績をおさめてきています。

当院で行っている人工ひざ関節置換術は単顆型（部分的）置換術と全置換術の2種類あります



全置換術

単顆型（部分）置換術

部分的置換は侵襲も少なく元の膝に近い印象となりますが、靭帯機能が温存、軟骨が部分的に残存し可動域がある程度保たれているといったことが条件となります。これらが膝の機能が破綻した進行～末期の関節は全置換術の適応となります。

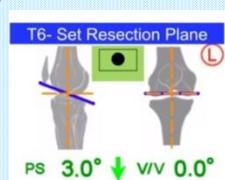
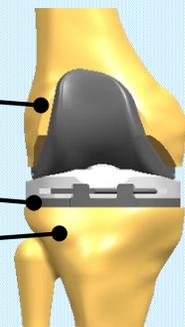
人工関節の構造ですが、削った骨の部分にチタン合金のインプラントを固定し、その間に人工の軟骨部分を設置します。

大腿骨インプラント

ペアリング

（軟骨の役目を果たす）

脛骨インプラント



ポータブルナビゲーションシステム

人それぞれ骨の形状やサイズが異なるため、手術前にX線やCT撮影を行い綿密な計画をし、その計画をもとに最終的には手術中の判断により患者さんにとって最適なサイズ、設置を決定します。また、当院では正確な骨切りを行うためポータブルナビゲーションシステムを利用し手術を行っています。



▶ちよこつと話

若いころの膝に戻るの、なかなか難しいです。人工関節は、関節の立て直しの手術です。長期保証が大切で、彦根市立病院で手術後はフォローさせていただきます。

住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送れるように、日常生活の維持・患者様が今後、どうなっていきたいかを一緒に考え、信頼関係を構築しながら進めていきます。手術後は、当院の地域包括ケア病棟で、在宅復帰を目指します。入院期間は3～4週間です。